

# 英語新カリキュラムのスキル別科目に関するアンケート調査

劔 持 淑・大 年 順 子・阿 部 正 敏・  
萩 野 勝・寺 西 雅 子・宇 塚 万里子

## A Survey of Skills-Based Integrated English Classes in the New Curriculum

Yoshi KENMOTSU, Junko OTOSHI, Masatoshi ABE,  
Masaru OGINO, Masako TERANISHI, Mariko UZUKA

### 要旨

岡山大学では平成25年度入学者から英語新カリキュラムを導入し、新1年生のスキル別科目の「総合英語1-4」(スピーキング、リーディング、ライティング、リスニング)は習熟度別クラス編成を行っている。本稿は、言語教育センター英語系が前期末の7月に実施した授業満足度に関するアンケート調査結果を分析したものである。入学時4月のTOEIC IPスコア395点以下、400点以上595点以下、600点以上の習熟度別グループに分けて学生の授業満足度の平均値をみると、習熟度の低いグループよりも高いグループの満足度が高い傾向がみられた。また、授業満足度に影響を与える要因は、習熟度別グループおよび担当教員グループによって異なることがわかった。

キーワード：スキル別科目、習熟度別クラス、授業満足度

### 1. はじめに

岡山大学では、平成25年度から教養科目において英語新カリキュラムを導入し、1、2年次生対象の英語の必修および選択必修のスキル別科目を、従来の週1コマから週2コマに増やした。本調査では、スキル別科目の習熟度別クラスでは、主にどのような要因が授業満足度に影響を及ぼしているのかについて調べた。アンケートに協力していただいた学生ならびに教員の皆様とデータ入力と集計にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。なお、SPSS (IBM SPSS Statistics 19) を用いたデータ解析は大年が担当し、まとめは主に劔持が担当した。

平成25年度新入生から、基本的には必修科目「総合英語」(8コマ8単位)を履修する。1年次の「総合英語1-4」(4コマ4単位)では、「スピーキング」「リーディング」「ライティング」「リスニング」のそれぞれに焦点を当てた演習を行い、基本となる英語力の向上を図る。また、従来は入学時4月のみ実施していたTOEIC IPテストを、1年次後期(12月)および2年次後期(12月)にも実施することになった。前期末の時点では、新入生は2回目のTOEIC IPテストをまだ受けていないため、本稿ではスコア変化の検証は行わない。

岡山大学における平成25年度教養英語カリキュラムの概要を表1にまとめる。

表1 教養英語カリキュラムの必修科目「総合英語1-4」と選択必修科目「総合英語5」

年次・期		科目	科目
1年	前期	総合英語1 (スピーキング)	総合英語2 (リーディング)
	後期	総合英語3 (ライティング)	総合英語4 (リスニング)
2年	前期	総合英語5 (選択必修)	総合英語5 (選択必修)
	後期	総合英語5 (選択必修)	総合英語5 (選択必修)

注1) 学部によっては、総合英語1・2を後期に、総合英語3・4を前期に履修する。さらに一部の学部では前期に3科目を履修させるところもある。

注2) 2年次の「総合英語5」(4コマ4単位)は選択必修科目である。1年次5月にWEB上で希望科目調査を行い、「プレゼンテーション」「リーディング」「ライティング」「リスニング」「自律学習」「eラーニング」の6種類の中から、前期・後期に2種類ずつ履修する。一部の学部学科では、独自のカリキュラムに沿った履修指導を行い、クラスを指定しているところがある。

## 2. アンケート調査

### 2-1. 調査の方法

「総合英語1-4」の全授業担当者にアンケートの質問用紙およびマークシート用紙を7月初めに配布し、7月末までにアンケートの実施および用紙の回収を依頼した。ほぼすべてのクラスでアンケートが実施され、8月中旬から9月初旬にデータ入力および集計を行った。

表2 平成25年度前期の科目別アンケート対象クラス数・回答者数・対象学部コース

	対象クラス数	回答者数	対象学部コース
総合英語1	42クラス	1108人	教・理・医・歯・薬・環・農
総合英語2	(29中) 28クラス	1040人	教・理・医・歯・薬・環・農
総合英語3	(44中) 43クラス	1104人	文・教育の一部・法・経・工・マッチングプログラム
総合英語4	27クラス	1140人	文・法・経・歯・工・マッチング

### 2-2. 質問項目

本研究に参加の研究者は検討会を重ね、授業満足度に関連すると思われる質問項目およびその他を作成した。その質問案について10人ほどの学生に模擬記入してもらい、文案の推敲を行った。質問項目1~11までは、4科目について共通である。



### 3. 集計結果および考察

#### 3-1. 「総合英語1」(スピーキング)

「総合英語1」は、ネイティブ教員がスピーキングに焦点を当てた演習を行う。(項目2)「教え方」、(項目3)「教材(テキストなど)」、(項目5)「アクティビティ」、(項目10)「授業満足度」について、それぞれ平均値を求めた。各項目は、最低1から最高7までのスケールで選択されている。

表4 「総合英語1」の(項目2)(項目3)(項目5)(項目10)の平均値・標準偏差

(対象者数 1108人)

	(項目2) 教え方	(項目3) 教材(テキストなど)	(項目5) アクティビティ	(項目10) 授業満足度
平均値	5.86	5.55	5.71	5.75
標準偏差	1.11	2.11	1.69	1.18

また、各科目は、入学時4月のTOEIC IPスコアによる習熟度別クラス編成となっている。習熟度と授業満足度の関連を調べるため、クラスのTOEIC IPスコアの平均点により、3つのグループに分けて、各項目の平均値を求めた。

表5 「総合英語1」の習熟度別グループの授業満足度

習熟度別グループ		グループ1	グループ2	グループ3	
TOEIC IPスコアレンジ		395点以下	400-595点	600点以上	
対象者数		401人	588人	119人	
上 段 平均 値	下 段 標準 偏差	教え方	5.56 (1.18)	6.01 (0.99)	6.15 (1.17)
		教材(テキストなど)	5.39 (2.42)	5.55 (1.17)	6.12 (3.83)
		アクティビティ	5.38 (1.18)	5.85 (2.02)	6.10 (1.13)
		授業満足度	5.45 (1.32)	5.84 (1.01)	6.10 (1.23)

習熟度の高いグループの授業満足度の平均値は、習熟度の低いグループの授業満足度の平均値よりも高くなる傾向が見て取れる。

次に(項目2)「教え方」、(項目3)「教材(テキストなど)」、(項目5)「アクティビティ」、の3つの項目を説明変数として、基準変数である(項目10)「授業満足度」に与える影響を検討するために、グループ1から3の習熟度別に重回帰分析を行った。下記の表6が結果である。

表6 「総合英語1」の授業満足度に対する習熟度別重回帰分析結果

	グループ 1	グループ 2	グループ 3
	$\beta$	$\beta$	$\beta$
教え方	.47***	.47***	.63***
教材(テキストなど)	.08*	.24***	-.12**
アクティビティ	.30***	.14***	.33***
R <sup>2</sup>	.54***	.52***	.80***

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

$\beta$ : 標準偏回帰係数

「総合英語1」(スピーキング)の授業においては、表6から見て取れるように、学生の習熟度に関係なく、「教え方」から「授業満足度」に対する標準偏回帰係数が最も高い数値(かつ0.001水準で有意)であることが明らかとなった。また、TOEIC IPスコアレンジ400点以上595点以下のグループ2では、3つの項目がすべて0.001水準で有意であった。一方、グループ1およびグループ3では、「教材(テキストなど)」は0.05水準および0.01水準での有意となっているため標準偏回帰係数 $\beta$ の数値には意味があると判定できるが、数値は0.08と大変小さく、「授業満足度」への影響は小さいことが分かる。さらに、グループ3では、「教材(テキストなど)」が-0.12(0.01水準で有意)と負の数値となっており、上位レベルのクラスでは、影響度は大変小さいものの、「教材(テキストなど)」から「授業満足度」に負の影響を与える可能性がうかがわれる。

### 3-2. 「総合英語2」(リーディング)

「総合英語2」は、ネイティブ教員と日本人教員がリーディングに焦点を当てた演習を行う。「教え方」、「教材(テキストなど)」、「アクティビティ」、「授業満足度」について、それぞれ平均値を求めた。各項目は、最低1から最高7までのスケールで選択されている。また、習熟度と授業満足度の関連を調べるため、クラスのTOEIC IPスコアの平均点により、3つのグループに分けて、授業満足度の平均値を求めた。

表7 「総合英語2」の(項目2)(項目3)(項目5)(項目10)の平均値・標準偏差

(対象者数 1040人)

	(項目2) 教え方	(項目3) 教材(テキストなど)	(項目5) アクティビティ	(項目10) 授業満足度
平均値	4.81	4.82	4.60	4.80
標準偏差	1.45	1.61	1.39	1.49

表8 「総合英語2」の習熟度別グループの授業満足度

習熟度別グループ	グループ1	グループ2	グループ3
TOEIC IPスコアレンジ	395点以下	400-595点	600点以上
対象者数	305人	618人	117人
N: ネイティブ教員担当、J: 日本人教員担当	(N: 125, J: 180)	(N: 159, J: 459)	(N: 39, J: 78)
授業満足度の平均値	4.38	4.87	5.49

「総合英語2」においても、習熟度の高いグループの授業満足度の平均値は、習熟度の低いグループの授業満足度の平均値より高くなる傾向が見て取れる。

「総合英語2」(リーディング)でも、「授業満足度」に与える影響について、「教え方」、「教材(テキストなど)」、「アクティビティ」の3つの項目を説明変数として重回帰分析を行った。「総合英語2」は習熟度別クラス編成に加えて、ネイティブ教員および日本人教員両グループが教えている。そこで、2種類の群(習熟度別・担当教員グループ別)で分析を行った。

表9 「総合英語2」の授業満足度に対する習熟度別・教員グループ別重回帰分析結果

	グループ1		グループ2		グループ3	
	ネイティブ教員	日本人教員	ネイティブ教員	日本人教員	ネイティブ教員	日本人教員
	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$
教え方	.53***	.19*	.39***	.53***	.65**	.41**
教材 (テキストなど)	.18*	.24*	.14	.11**	.03	.24*
アクティビティ	.24***	.40***	.25**	.28***	.03	.15
R <sup>2</sup>	.75***	.45***	.35***	.66***	.44***	.67***

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

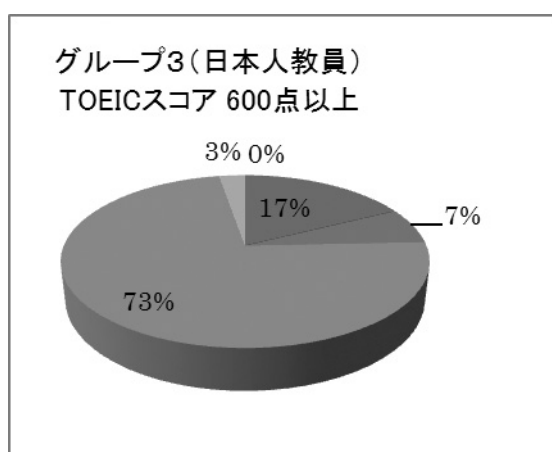
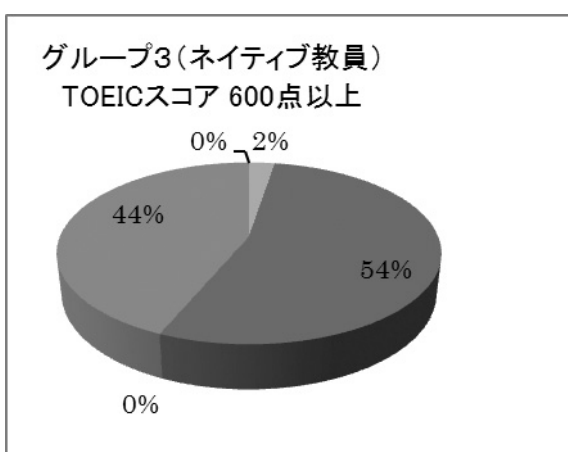
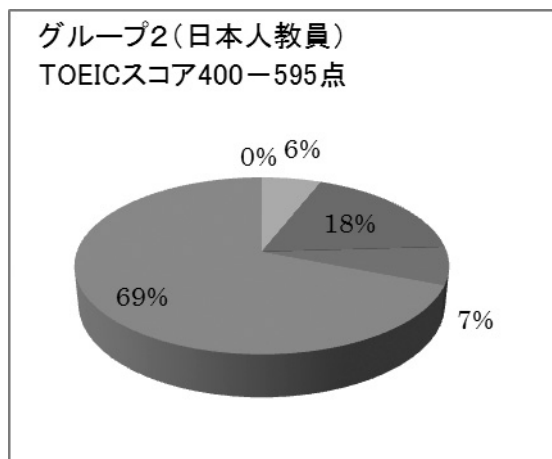
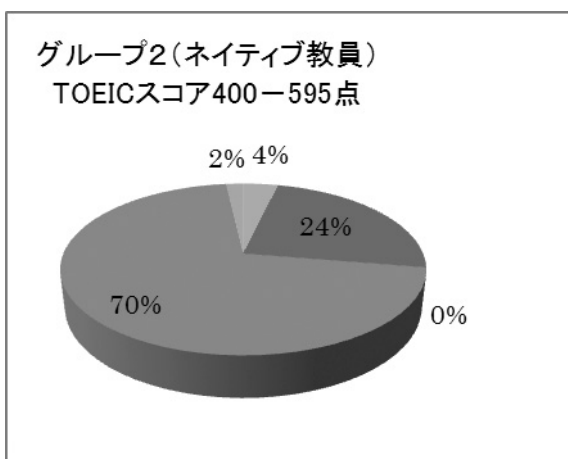
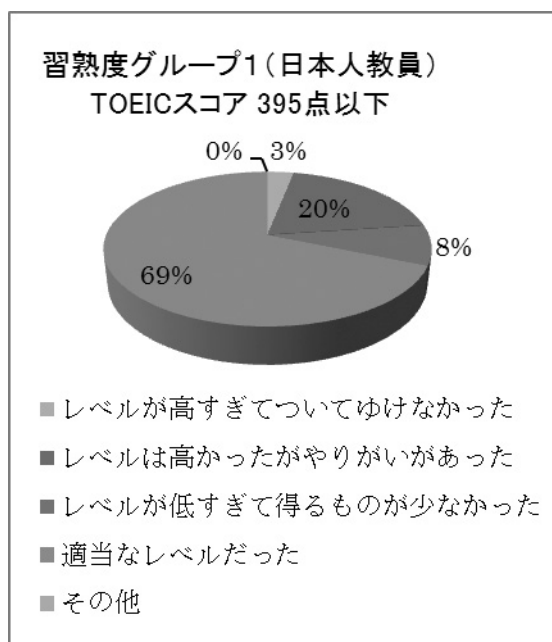
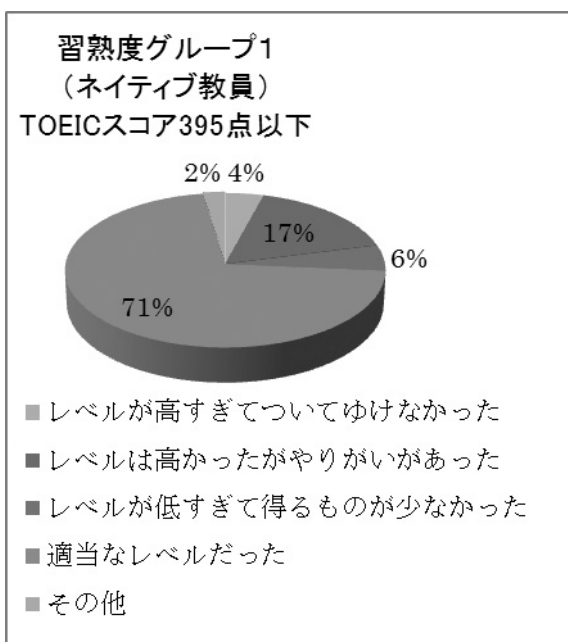
$\beta$  : 標準偏回帰係数

この結果から、「総合英語2」(リーディング)の授業において、ネイティブ教員では、習熟度別グループ1、2、3のいずれにおいても、「授業満足度」に最も影響を与える要因は「教え方」で、「担当教員の教え方がわかりやすかった」場合に授業満足度が高いことが予想される。一方、日本人教員では、習熟度グループ2と3では、「授業満足度」に最も影響を与える要因は「教え方」であるが、習熟度グループ1では、「アクティビティ」で、「授業が対象とするスキルの実践力向上にとって、授業のアクティビティ(講義、ペアワーク、プレゼンテーション、宿題など、実施した活動。試験を除く)が適切であった」場合に、授業満足度が高いことが予想される。また、グループ1を除きネイティブ教員が担当した場合、「教材(テキストなど)」は「授業満足度」に影響を与える要因となっていないことが認められる。日本人教員が担当した場合でも、0.05水準および0.01水準において、各グループでわずかに有意と判定できるものの、標準偏回帰係数 $\beta$ 値から「授業満足度」への影響力は小さいと推察される。

表10 質問4「教材のレベルはどうでしたか」について、「1 レベルが高すぎてついてゆけなかった」「2 レベルは高かったがやりがいがあった」「3 レベルが低すぎて得るものが少なかった」「4 適当なレベルだった」「5 その他」の度数と割合(パーセント)

習熟度別グループ		ネイティブ教員		日本人教員	
		度数	パーセント	度数	パーセント
1 = 395点以下	1	7	4.2	4	3.1
	2	28	16.8	26	19.8
	3	9	5.4	11	8.4
	4	119	71.2	90	68.7
	5	4	2.4	0	0.0
	合計	167	100.0	131	100.0
2 = 400-595点	1	4	3.7	29	6.0
	2	26	23.9	87	18.1
	3	0	0.0	33	6.9
	4	77	70.6	331	69.0
	5	2	1.8	0	0.0
	合計	109	100.0	480	100.0
3 = 600点以上	1	1	2.6	0	0.0
	2	21	53.8	13	17.6
	3	0	0.0	5	6.7
	4	17	43.6	54	73.0
	5	0	0.0	2	2.7
	合計	39	100.0	74	100.0





教材が、「2 レベルは高かったがやりがいがあった」あるいは「4 適切なレベルだった」と感じる者がほとんどであれば、教材レベルについて特に問題はないと考えられる。しかしながら、「1 レベルが高すぎてついてゆけなかった」あるいは「3 レベルが低すぎて得るものが少なかった」と感じる者が多い場合に、授業満足度が特に低くなる事例があった。

表11 教材のレベルが高すぎた事例1 (TOEIC IPスコアレンジ530-700点; 平均点572点)  
(対象者数 45人)

	質問4-1	質問4-2	質問4-3	質問4-4	質問4-5	授業満足度
度数	19	18	2	6	0	3.6
%	42.2%	40.0%	4.4%	13.4%	0.0%	

表12 教材のレベルが低すぎた事例2 (TOEIC IPスコアレンジ345-560点; 平均点477点)  
(対象者数 38人)

	質問4-1	質問4-2	質問4-3	質問4-4	質問4-5	授業満足度
度数	0	1	10	27	0	3.7
%	0.0%	2.6%	26.3%	71.1%	0.0%	

事例1では、「1 教材のレベルが高すぎてついてゆけなかった」と感じた者の割合が42.2%、「2 レベルは高かったがやりがいがあった」と感じた者の割合が40.0%で、授業満足度は7段階で3.6と、グループ2の平均値(4.87)よりかなり低かった。ただ、クラスの習熟度はグループ2であるが、スコアレンジが530-700点と、グループ2および3にまたがるクラスであった。

事例2では、「教材のレベルが低すぎて得るものが少なかった」と感じた者の割合が26.3%で、授業満足度は3.7と低かった。ただ、このクラスも、習熟度はグループ2であるが、スコアレンジは345-560点と、グループ1および2にまたがるクラスであった。

教材のレベルが対象学生の習熟度に合わなければ、授業満足度への影響が予想されるころではある。しかし、クラスのスコアレンジが広い場合、どのレベルを対象の中心とするかについて、教材選択にも授業運営にも、困難が生じていた可能性がある。

「総合英語2」については、特にリーディングに関連する質問項目を加えている。

表13 リーディング用の質問項目

総合英語2 (リーディング) に関するアンケート	
12. テキスト(教材)の内容に興味がありましたか。	
全く持てなかった	1 2 3 4 5 6 7 非常に興味を持った
13. テキスト(教材)を使った読解(精読)のアクティビティはリーディング力の向上に役立ちましたか。読解(精読)のアクティビティがなかった場合は、4を選んでください。	
全く役に立たなかった	1 2 3 4 5 6 7 非常に役に立った
14. 多読のアクティビティ(易しい英文をたくさん読む)はリーディング力の向上に役立ちましたか。多読のアクティビティがなかった場合は、4を選んでください。	
全く役に立たなかった	1 2 3 4 5 6 7 非常に役に立った
15. 一般的に、日本語でも英語でも本を読むのが好きですか。	
全く好きではない	1 2 3 4 非常に好きである
16. 図書館やA12教室にある多読教材の数は足りていますか。	
1 数が足りない	2 わからない 3 足りている
17. 図書館やA12教室にある多読教材の種類は十分ですか。	
1 種類が少ない	2 わからない 3 種類は十分である

以下の質問では、18~27の項目のうち、該当する番号を○で囲んでください。マークシート用紙に



転記する際は、各項目番号について該当する場合は「1」に、該当しない場合は「0」にマークしてください。

多読教材を利用する場合、どこで多読教材を借りたり読んだりしていますか。複数選択可。

18. 中央図書館、19. A12教室、20. L-café、21. 自宅、22. その他

このリーディングの授業を受講して、伸びたと思う能力は何ですか。複数選択可。

23. 語彙力、24. 文法力、25. 要点を把握する力、26. 速読の力（読む速さが増した）

27. その他（具体的に： ）

ご協力ありがとうございました

表14 「総合英語2」の（項目12）（項目13）（項目14）の平均値

	平均値
（項目12） テキストの内容に興味を持った	4.46
（項目13） テキストを使った読解（精読）のアクティビティが役立った	4.55
（項目14） 多読のアクティビティ（易しい英文をたくさん読む）が役立った	4.54

「テキストを使った読解（精読）のアクティビティ」と「多読のアクティビティ（易しい英文をたくさん読む）」では、リーディング力向上にどの程度役立つのかについて、学生が感じるところでは、全体としてほとんど変わらない数値であった。

### 3-3. 「総合英語3」（ライティング）

「総合英語3」は、ネイティブ教員と日本人教員がライティングに焦点を当てた演習を行う。「教え方」、「教材（テキストなど）」、「アクティビティ」、「授業満足度」について、それぞれ平均値を求めた。各項目は、最低1から最高7までのスケールで選択されている。また、習熟度と授業満足度の関連を調べるため、クラスのTOEIC IPスコアの平均点により、3つのグループに分けて、「授業満足度」の平均値を求めた。

表15 「総合英語3」の（項目2）（項目3）（項目5）（項目10）の平均値・標準偏差

（対象者数 1104人）

	（項目2） 教え方	（項目3） 教材（テキストなど）	（項目5） アクティビティ	（項目10） 授業満足度
平均値	5.68	5.25	5.47	5.53
標準偏差	1.70	1.76	1.75	1.26

表16 「総合英語3」の習熟度別グループの授業満足度

習熟度別グループ	グループ1	グループ2	グループ3
TOEIC IPスコアレンジ	395点以下	400-595点	600点以上
N：ネイティブ教員担当、J：日本人教員担当	(N：28, J：265)	(N：442, J：265)	(N：77, J：27)
対象者数	293人	707人	104人
授業満足度の平均値	5.24	5.57	6.20

「総合英語3」についても、習熟度の高いグループの授業満足度の平均値は、習熟度の低いグループの授業満足度の平均値よりも高くなる傾向が見て取れる。

「総合英語3」（ライティング）でも、「授業満足度」に与える影響について、「教え方」、「教材（テキストなど）」、「アクティビティ」の3つの項目を説明変数として重回帰分析を行った。「総合

英語3」も習熟度別クラス編成に加えて、ネイティブ教員および日本人教員両グループが教えている。そこで、2種類の群（習熟度別・担当教員グループ別）で分析を行った。

表17 「総合英語3」の授業満足度に対する習熟度別・教員グループ別重回帰分析結果

	グループ1		グループ2		グループ3	
	ネイティブ教員	日本人教員	ネイティブ教員	日本人教員	ネイティブ教員	日本人教員
	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$
教え方	-0.15	.17***	.40***	.37***	.38**	.46**
教材（テキストなど）	.39	.10*	.34***	.19***	.10	.26
アクティビティ	-0.20	.61***	.07*	.34***	.22	.29*
R <sup>2</sup>	-0.03	.50***	.49***	.66***	.37***	.79***

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

$\beta$ ：標準偏回帰係数

「総合英語3」（ライティング）の授業においては、授業満足度を高める要因が、習熟度別グループによってやや異なる。習熟度グループ1においては、ネイティブ教員では「教え方」、「教材」、「アクティビティ」のいずれも授業満足度の要因として該当しないが、日本人教員では「アクティビティ」が授業満足度の最も大きな要因と考えられる。さらに、グループ1では日本人教員の「教材（テキストなど）」についても、0.05水準で有意となっていることから、標準偏回帰係数 $\beta$ 値が大変小さいものながら、意味のある数値であることがうかがえる。

習熟度グループ2においては、ネイティブ教員および日本人教員とも、「教え方」、「教材」、「アクティビティ」のすべてが授業満足度に影響を与えると考えられる。ネイティブ教員グループでは、「教え方」について「教材」の標準偏回帰係数 $\beta$ 値も大きな数値となっている。しかし、「アクティビティ」が授業満足度に与える影響は0.05水準で有意となっているものの、数値は非常に小さい。一方、日本人教員グループでは、「教え方」、「教材」、「アクティビティ」のすべてにおいて、授業満足度に与える影響は0.001水準で有意である。また、「教え方」について「アクティビティ」の標準偏回帰係数 $\beta$ 値が大きな数値となっているところが、ネイティブ教員グループの傾向と異なっている。習熟度グループ3においては、ネイティブ教員と日本人教員のいずれも、「教え方」が0.01水準で有意となっていることから、授業満足度の要因と考えられる。さらに日本人教員では、「アクティビティ」についても、0.05水準で有意となっていることから、授業満足度の要因となっていることが考えられる。

表18 「総合英語3」でスコアレンジが広すぎる事例3

(TOEIC IPスコアレンジ270-825；平均点455点) (対象者数 13人)

	質問 1	質問 2	質問 3	質問 4-1	質問 4-2	質問 4-3	質問 4-4	質問 4-5	質問 5	授業満足度
度数 %	4.7	3.5	4.2	0 0.0%	2 15.4%	4 30.8%	7 53.8%	0 0.0%	3.8	3.7

教材のレベルを問う質問4で、「2 レベルが高かったがやりがいがあった」(15.4%) という者がある一方で、「レベルが低すぎて得るものが少なかった」(30.8%) という者もいた。習熟度別グループの1、2、3を含むスコアレンジが広すぎる事例である。授業の対象者のレベルを絞

ることができないため、教材選択にも授業運営にも困難があったと推察される。

### 3-4. 「総合英語4」(リスニング)

「総合英語4」は、ネイティブ教員と日本人教員がリスニングに焦点を当てた演習を行う。「教え方」、「教材(テキストなど)」、「アクティビティ」、「授業満足度」について、それぞれ平均値を求めた。各項目は、最低1から最高7までのスケールで選択されている。また、習熟度と授業満足度の関連を調べるため、クラスのTOEIC IPスコアの平均点により、3つのグループに分けて、授業満足度の平均値を求めた。

表19 「総合英語4」の(項目2)(項目3)(項目5)(項目10)の平均値・標準偏差

(対象者数 1140人)

	(項目2) 教え方	(項目3) 教材(テキストなど)	(項目5) アクティビティ	(項目10) 授業満足度
平均値	5.47	5.23	5.15	5.4
標準偏差	1.96	1.38	1.38	1.21

表20 「総合英語4」の習熟度別グループの授業満足度

習熟度別グループ	グループ1	グループ2	グループ3
TOEIC IPスコアレンジ	395点以下	400-595点	600点以上
対象者数	256人	764人	120人
N: ネイティブ教員担当、J: 日本人教員担当	(N: 0, J: 256)	(N: 425, J: 339)	(N: 82, J: 38)
授業満足度の平均値	5.53	5.30	5.80

「総合英語4」については、グループ1は日本人教員のみが担当し、グループ2とグループ3はネイティブ教員と日本人教員が担当している。グループ2の習熟度中位のグループの満足度が3つのグループの中で最も低くなっているが、習熟度が最も高いグループの授業満足度の平均値は、これまで見てきた3科目と同様に、最も高くなっている。

「総合英語4」(リスニング)でも、「授業満足度」に与える影響を、「教え方」、「教材(テキストなど)」、「アクティビティ」の3つの項目を説明変数として重回帰分析を行った。「総合英語4」のグループ1(TOEIC IP 395点以下)については、ネイティブ教員は担当していないため、グループ2およびグループ3で2種類の群(習熟度別・担当教員グループ別)で分析を行った。

表21 「総合英語4」の授業満足度に対する習熟度別・教員グループ別重回帰分析結果

	グループ1		グループ2		グループ3	
	ネイティブ教員	日本人教員	ネイティブ教員	日本人教員	ネイティブ教員	日本人教員
	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$
教え方	—	.04	.32***	.40***	.32**	.30*
教材(テキストなど)	—	.09	.45***	.20***	.45***	.31**
アクティビティ	—	.11	.14	.30***	.14	.49***
R <sup>2</sup>	—	.02*	.54***	.64***	.72***	.73***

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ , \*\*\*  $p < .001$

$\beta$ : 標準偏回帰係数

「総合英語4」(リスニング)の授業においても、授業満足度に影響を与える要因が、習熟度別

グループおよび担当教員グループによってやや異なっている。習熟度グループ1を担当した日本人教員については、p値および標準偏回帰係数 $\beta$ 値から、「教え方」、「教材（テキストなど）」、「アクティビティ」のいずれも授業満足度との関係性が見えない。しかし、授業満足度の数値はグループ2より高くなっている。習熟度グループ2においては、ネイティブ教員では、特に「教材（テキストなど）」が、次に「教え方」が授業満足度に影響を与える要因と考えられる。一方、日本人教員では、「教え方」、「アクティビティ」、「教材（テキストなど）」の順ですべてが授業満足度に影響を与える要因として考えられる。習熟度グループ3においては、ネイティブ教員では、特に「教材（テキストなど）」が、次に「教え方」が授業満足度に影響を与える要因として考えられる。一方、日本人教員では、特に「アクティビティ」が授業満足度に強い影響を与える要因として考えられ、次に「教材（テキスト）」、「教え方」の順で授業満足度に影響を与える要因として考えられる。

#### 4. まとめ

授業満足度に影響を与える要因に主眼をおいて、アンケート調査を実施した。「総合英語1」、「総合英語2」、「総合英語3」、「総合英語4」のスキル別科目（スピーキング、リーディング、ライティング、リスニング）の全クラスを、入学時4月のTOEIC IPスコアに基づく習熟度別クラスの平均点により3つのグループに分け、学生の授業満足度の平均値を出して、分析を行った。習熟度の低いグループよりも高いグループの満足度が高い傾向にあることは予想どおりであった。しかしながら、クラスを個別に見れば、このような傾向に関係なく高いあるいは低い満足度を示す授業が行われていることも事実である。さらに、「教え方」、「教材（テキストなど）」、「アクティビティ」について、習熟度別グループにより、またネイティブ教員が担当するか日本人教員が担当するかにより、授業満足度に影響を与える要因が異なることもわかった。今後は、TOEIC IPスコア変化のデータと合わせて、スキル別に、どのような教え方がわかりやすく効果的であり、どのようなアクティビティが学習者にとって適切かということについて、さらに研究を進める必要がある。

\*本稿は、岡山英文学会第36回大会（2013年10月5日、岡山大学）において口答発表した原稿に加筆・修正を施したものである。